

繰り返ししかかわることを大切にした乳幼児教育相談の取組

～教師のかかわりの視点から～

杉山 砂寿・林 徳子・山縣 浅日・鶴飼 英里佳・村井 里帆・山中 健二

本校乳幼児教育相談では、子どもの発達に合わせながら、遊びや生活の中で表現や言葉を意識的に聞く（見る）、使う機会を繰り返し、積み重ねていくことを大切にしている。この「繰り返し」は、子どもの思いや行動などに応じて教員が意図的に行っている。教員や保護者とのかかわりを繰り返し楽しむことは、子どもが物事をわかったり、働きかけられたことをわかって行動したりすることにつながる。また、聴覚活用やコミュニケーション、言葉、表現の仕方などを身に付ける上でも有効であると考えている。教員と子ども、親子での繰り返しかかわり、また、保護者の不安や悩みへの繰り返しかかわりの支援、家庭で繰り返しかかわる機会を多くしていくための支援などについて、日頃の実践を振り返り、繰り返しかかわることの大切さについてまとめる。

キー・ワード：乳幼児教育相談 かかわり 繰り返し 保護者支援

1 はじめに

本校では、一人ひとりの聞こえに配慮しながら、言葉の理解や表現を育て、日本語でやりとりする力を育てることを大切にしている。そのような力を子どもが身に付けていくためには、保護者と子ども、教員と子ども、教員と保護者の安心できる信頼関係の構築が必要である。子どもの年齢が低いほど、生活や遊びを通して、子ども自身が理解できるかかわりの積み重ねが大切になる。それとともに、保護者の不安や悩みに寄り添い、家庭でのかかわり方について支援していくことも大切である。

本校乳幼児教育相談では、日本語でやりとりする力を育てていくための基礎として、毎日の生活や遊びの中で、子どもとどうかかわり、何を積み上げていくかについて、教員同士でよく話し合っている。また、家庭で保護者が子どもとどうかかわることができるか、どうすれば子どもによく伝わるのかについても話し合う機会が多い。そこでよく話題になる「繰り返し」のかかわりに焦点を当て、その内容や方法についてまとめる。

2 かかわり、活動、支援の繰り返しについて

本校乳幼児教育相談における「繰り返しかかわること」についての基本的な考え方を以下に整理する。

(1) 生活、遊びの考え方

生活や遊びは、その場、その時のやりとりの繰り返しに加え、継続的に同じ活動ややりとりを繰り返す機会が多くある。乳幼児教育相談での繰り返しの活動、遊びなどは、家庭における生活や遊びでの繰り返しかかわりにつながると考えている。

(2) 子どもへのかかわりの考え方

繰り返し同じ表現を使ったり、言葉を聞かせたりすることで、理解できる物や事柄が積み重なることにつながる。それは、その後の子ども自身が使う表現や言葉につながると考えている。

(3) 保護者へのかかわりの考え方

子どもへのかかわり方を学び、家庭で繰り返しかかわることにつなげていくため、保護者がそのかかわりの意味を知り、自ら気づき考えていくことにつなげていきたいと考えている。子育てへの不安や悩みについても、気持ちが前向きになったように見えても、同じような場面でまた悩むことも多い。その度に、繰り返し寄り添いながら話し合い、保護者の気持ちが前向きになるよう支援している。

3 本校での取組について

(1) 生活、遊びでのかかわり

- ・子どもの興味や関心に合わせて
- ・楽しいやりとり
- ・わかることの積み上げ
- ・同じことを何度も

乳幼児は、身近な大人との生活や遊びが中心の毎日を送っている。生活の中では繰り返されるのが非常に多くある。例えば、おむつの交換、ミルク、食事、靴の脱ぎ履き、手洗いなどの生活習慣や、遊びの場面などでやりとりをしている時の物の貸し借り、要求、気持ちの表現などである。そのような場面で、繰り返しかかわることは、子どものわかることの積み上げにつながる。また、同じ遊びを繰り返す行うことは、見通しをもって期待をして待つことやかかわることにつながっていく。(Fig. 1)

(2) 教員と子どものかかわり

- ・子どもの興味や関心に合わせて
- ・見せて聞かせることの繰り返し
- ・楽しいと感じることの繰り返し
- ・活動や遊びの繰り返し
- ・わかるかかわりの繰り返し

教員は、子どもに合わせた伝え方、見せ方、言い方に気をつけ、子どもがわかるかかわり方をするよ

う常に心がけている。しかし、乳幼児期の子どもは、理解しようとして見たり聞いたりすることはまだ難しい。そのため、教員は子どもが楽しいと感じることや興味の向いていることを捉え、楽しいと感じられるかかわりをしながら子どもと遊んだりやりとりをしたりする。その中で、教員は意図的に同じ表現や言葉を繰り返し使用し、子どもがその意味を理解していくことができるようかかわっている。(Fig. 2)

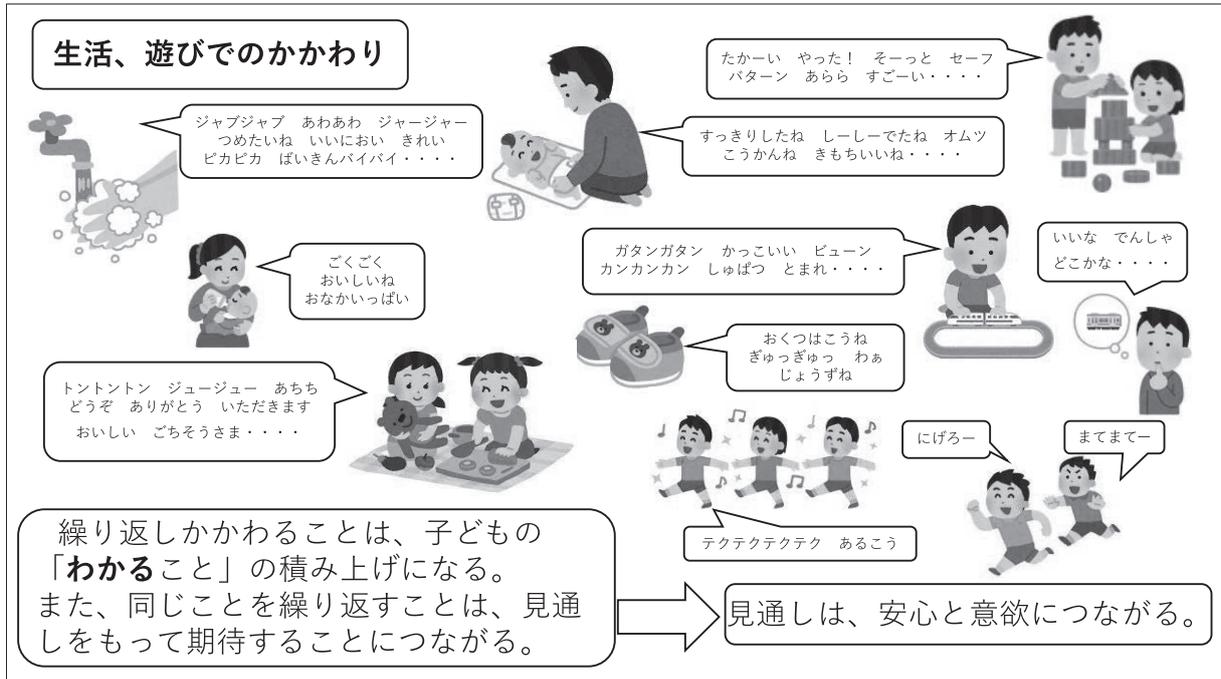


Fig. 1 生活、遊びでのかかわり

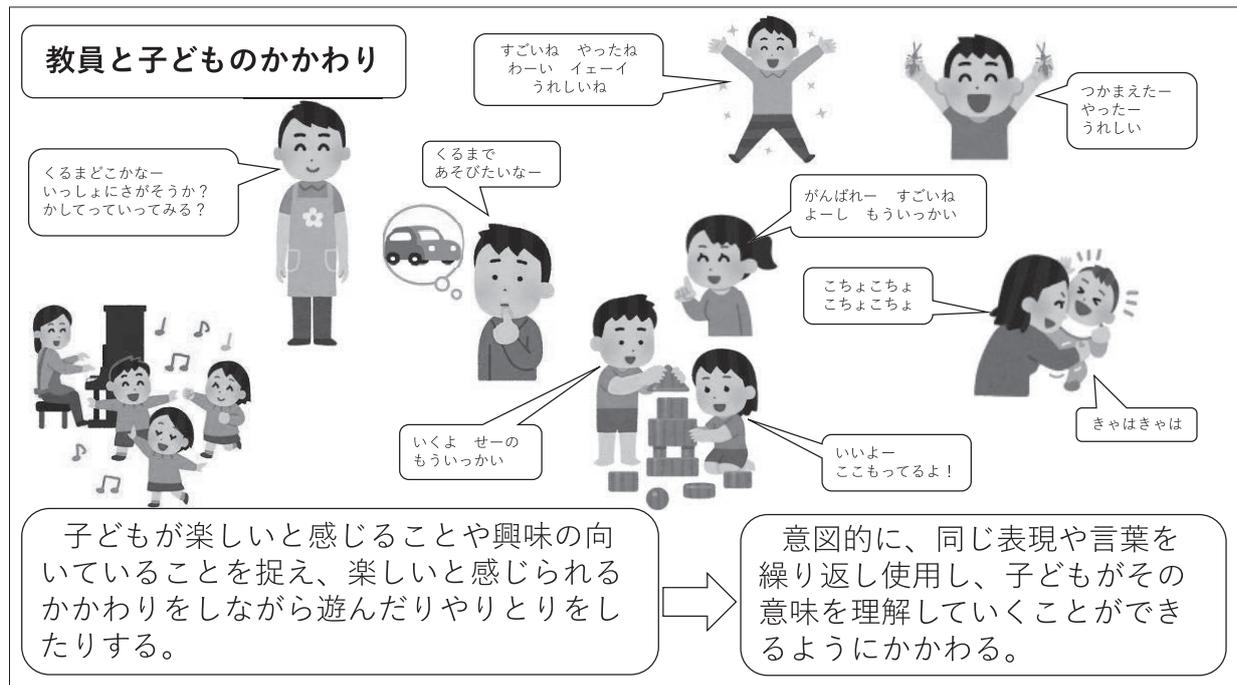


Fig. 2 教員と子どものかかわり

(3) 保護者支援

① 保護者の不安や悩み、思いに応じる

- ・保護者の思いや気持ちに寄り添う
- ・保護者の話をよく聞く
- ・子どもを可愛いと実感できるように
- ・保護者の状態に合わせた支援
- ・同じことを何度も

聞こえにくい子どもを初めて育てる保護者は、子どもの「聞こえ」「言葉」「かかわり」「補聴機器」や、「家族」「仕事」「将来」などについて、様々な心配事や不安を抱えているケースが多い。保護者は、様々な手段を使い情報を集めるが、どうすれば良いかわからず、気持ちばかりが焦り、我が子と向き合えなくなってしまうことも多い。乳幼児教育相談で支援を受けていても心配事や不安は繰り返すため、教員はその都度保護者の気持ちや思いに寄り添い、話を聞き、タイミングを見てその時に必要な情報や子どもとの向き合い方について話したり説明したりしている。保護者の不安が繰り返す度に、教員も同じ話や説明を何度も繰り返しながら、保護者自身が前向きな気持ちで子どもに向き合えるよう支援している。(Fig. 3)

② 保護者が子どもとかかわっていくために

- ・子どもの捉え方について
- ・教員と子どものかかわりからの支援
- ・保護者のかかわり方からの支援
- ・保護者の気づき

保護者自身が、子どもへの見せ方や聞かせ方、子

どもの捉え方やかかわり方について考えたり、試行錯誤したりしながら、繰り返し子どもとかかわっていけると良いと考えている。そこで教員は、子どもの興味や関心、考えていること、感じていること、気持ちなどを捉えながら、遊んだりやりとりをしたりしている様子を見てももらえるよう意識している。そして、子どもとのかかわりの意図を説明することを大切にしている。また、タイミングを見て保護者と交代し、保護者自身が子どもと楽しんで遊べるように心がけている。(Fig. 4)

③ 保護者と子どものかかわり

- ・子どもの興味や関心に合わせて
- ・見せて聞かせることの繰り返し
- ・楽しいと感じていることの繰り返し
- ・活動や遊びの繰り返し
- ・わかるかかわりの繰り返し

保護者の気持ちが安定してくると、どのようなことを大切にしながら子どもとかかわるのか、少しずつ取り組めるようになる。そこで教員は、保護者が子どもと繰り返しかかわっていけるよう、様々な場面で、どのような表現を使うと良いのか、どのような言葉を聞かせていくと良いのかについて、保護者と話し合ったり、説明をしたりする。さらに、子どもとのやりとりの中で、同じ表現や言葉を繰り返し使用するためにはどのようにするのかについて、保護者と一緒に考えるようにしている。活動中での保護者と子どものかかわりが、家庭でも繰り返せるよう支援している。(Fig. 5)

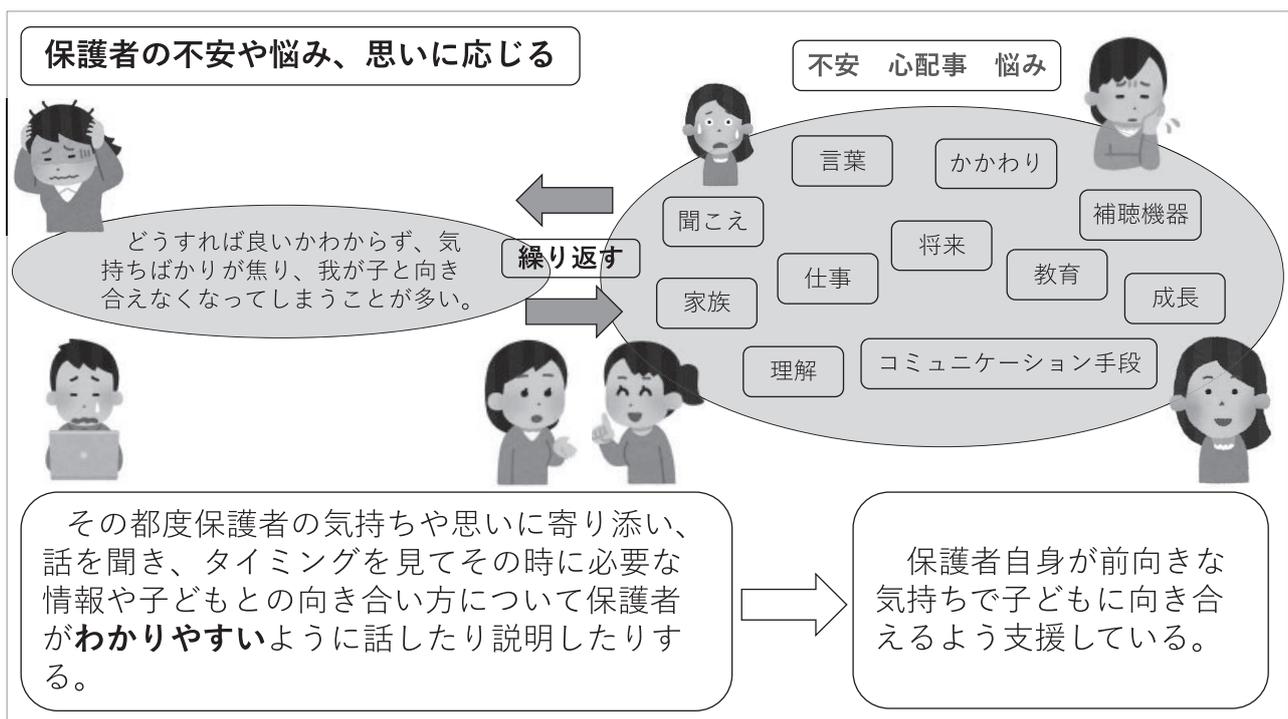


Fig. 3 保護者の不安や悩み、思いに応じる

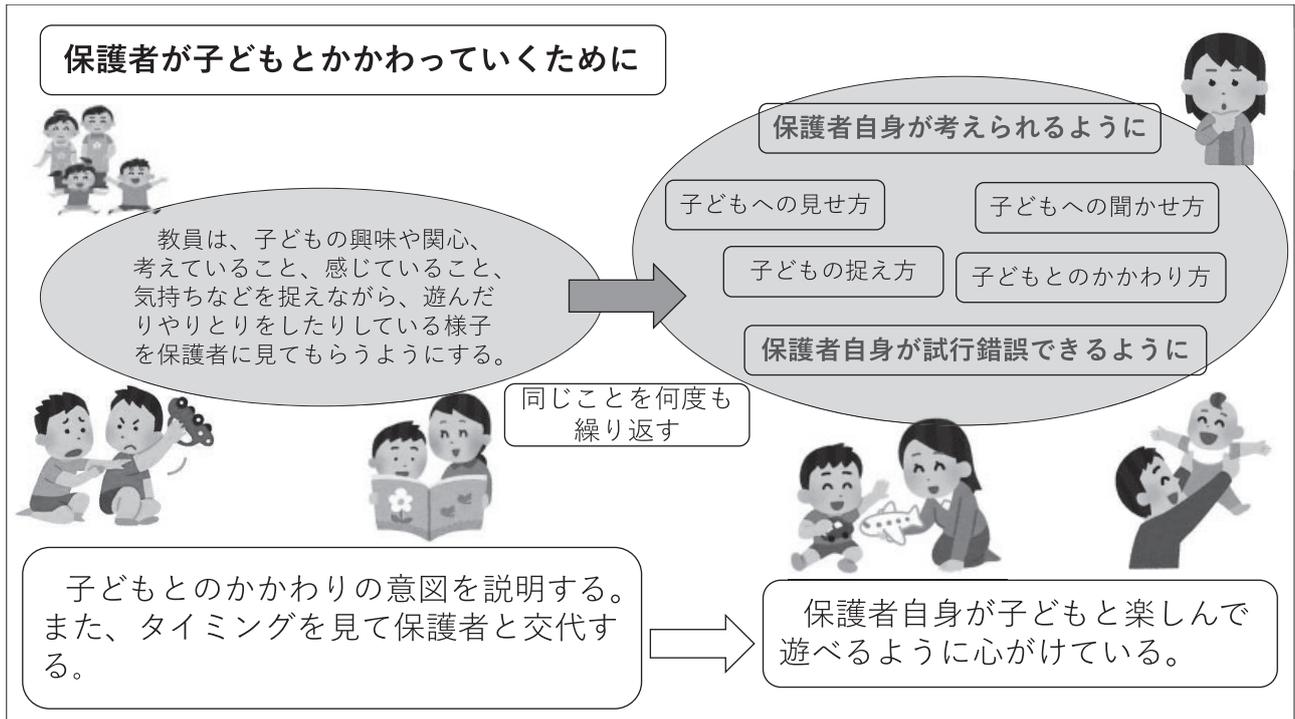


Fig. 4 保護者が子どもとかがわっていくために

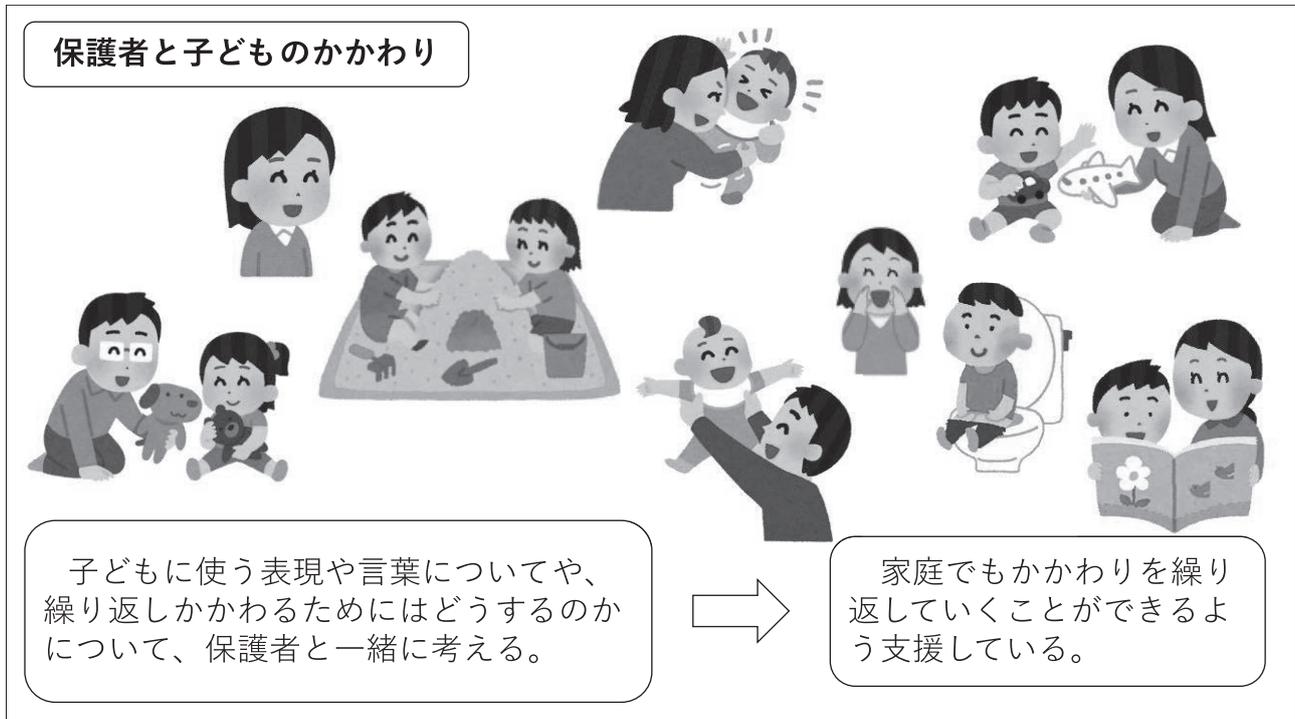


Fig. 5 保護者と子どものかかわり

4 まとめ

本校乳幼児教育相談では日常的に教員同士で子どもや保護者について、出来事、かかわりの面、変化や成長、教員の対応などについて、話し合うようにしている。その中で、特に話題になるのは、子どもに対しても保護者に対しても、どのような支援をしたのか、また、その支援が適切だったのかということである。もし、教員の行った支援が子どもや保護者にとって本当に良かったのか、改善点があったかどうかと考えるのであれば、教員の支援を変えていく必要がある。

- ・子どもや保護者の思いをどう捉えたか
- ・伝える時の配慮やタイミングについて
- ・相手がどう受けたのか、感じたのか
- ・子どもや保護者のせいにしていないか

日々の話し合いの中で、お互いに自分の支援を振り返り、気づき、考え、次の支援のプランを考え、繰り返し試行錯誤していくことが、子どもや保護者へのより良い支援につながる。教員同士で共有していることや話し合っていることの繰り返しについて Fig. 6 に示す。

子どもや保護者にとって、『わかるかかわりの繰り返し』は、言語を習得していく上で大切であり、それは、乳幼児期から次の段階においても、つながっていく大切なかかわりである。(Fig. 7)

【付記】

本研究は、筑波大学附属聴覚特別支援学校研究倫理審査委員会の承認を受けて実施されたものである。

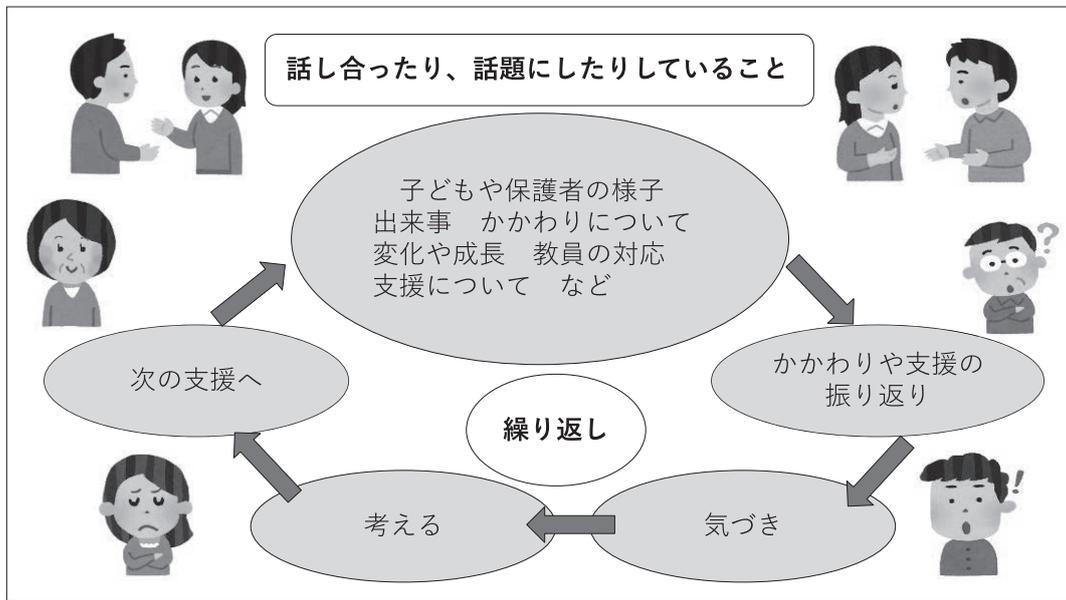


Fig. 6 教員同士の共有、話し合い

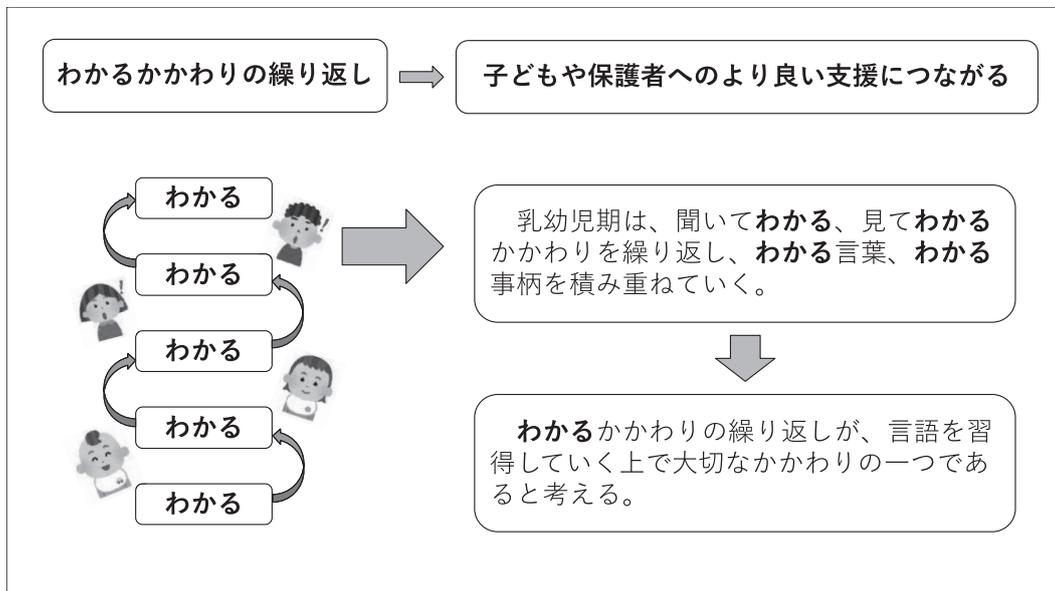


Fig. 7 わかるかかわりの繰り返し